

退任のご挨拶と JSNP 情報（JSNP 理事長通信）

JSNP 会員各位

台風や地震に被災された皆様にお悔やみ及びお見舞いを申し上げます。

さて、2018年11月15日をもちまして JSNP 理事長を退任いたしました。約2年間の任期の間、ご支援、ご指導いただきまして、誠に有難うございました。新理事長には予定通り中込和幸先生がご就任されました。中込先生には、約2年間 JSNP 副理事長としてリーダーシップを発揮していただきましたし、JSNP 年会長としても11月14-16日の合同年会を参加者数1400名以上の大盛会にお導きいただきました。また、副理事長には東北大学副学長の大隅典子先生が選出されましたので、今後2年間の JSNP 運営は盤石のことと思います。これから委員会体制などが整えられると思います。新しい体制の JSNP もどうぞよろしく願い申し上げます。



2018年11月15日 JSNP 新旧理事会

2年間を振り返りますと、JSNPの基礎・臨床のバランスの取れた発展、神経精神薬理学の国際化での役割の継続、中枢薬開発の基盤整備のための競争前産学官連携事業の準備、精神神経疾患薬物療法の向上と均霑化を図るガイドラインの充実など、私の就任前から進められてきたことが、ご担当いただいた委員会の先生方、理事会メンバー、会員の皆様のご尽力により、順調に発展したように思います。また、新規事業として取り組んだ機関誌のリニューアルと不安症診療ガイドライン作成も、編集委員長の宮川剛先生と企画委員長兼不安症薬物療法ガイドラインタスクフォース委員長の井上猛先生の驚異的な行動力により、会員の声や時代のニーズに応えた形で進んだと思います。会員の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

国際化に関しては、国際学術委員会（新田淳美委員長）が中心となり、2年間でさらに発展したと思います。2018年6月の国際神経精神薬理学会（CINP）ウィーン大会におきましても、国別参加者数で日本が一位となり、また北市清幸先生のリーダーシップのもとでアジアナイトが200名を超える参加者となってアジアや JSNP のプレゼンスが世界に示されました。次の CINP 世界大会は2020年6月25-28日に台北で開催されます。そろそろシンポジウム提案が始まると思いますので、ぜひ企画のご検討をお願い申し上げます。また2018年6月の役員改選では、理事長を含め執行委員を長年お務めになられた山脇成人先生と副理事長を4年お務めになられた齋藤利和先生がご退任されましたが、池田が新たに執行委員となり、カウンセラーには新田淳美先生と橋本亮太先生が選出され、執行委員とカウンセラーの計17名の内、3名が JSNP 会員という状況は維持できました。現在 Kasper 新理事長のリーダーシップのもと、CINP が生まれ変わろうとしています。ホームページも新しくなりましたので、是非ご覧いただけますようお願い申し上げます。

CINP 新ホームページ

<https://www.cinp.org/admin/website/?pageId=1075335>

アジア神経精神薬理学会（AsCNP）も、2017年1月より台湾の Tom Su 先生からインドネシアの Tanra 先生に理事長が代わり、2017年4月に第5回大会がバリで開催され、日本からは開催国のインドネシアに次ぐ参加者となりました。新田淳美先生のセントラルオフィス事務局長としての安定した学会運営により AsCNP は急速に発展し、JSNP がそこに大きな貢献をしています。何度もお知らせして恐縮ですが、

2019年1月からは池田が理事長を務め、2019年10月11-13日には福岡国際会議場において第6回大会（大会長：池田和隆、副大会長：下田和孝先生、染矢俊幸先生）が開催されます。第49回JSNP年会（年会長：宮田久嗣先生）、第29回日本臨床精神神経薬理学会（JSCNP）年会（年会長：吉村玲児先生）との同時開催となります。AsCNP2019に関しましては、50を超える公募シンポジウムのご提案をいただき、大会企画シンポジウムも別途準備しております。特別講演では、製薬協や日薬連の会長も務められた大日本住友製薬の多田正世会長、米国NIHアルコール依存研究所のGeorge Koob所長、ケタミン作用機序に関する研究成果をNature誌のArticleに連報で発表したHailan Hu教授にご講演いただきます。国内枠での特別講演でも、神庭重信先生とBernhard Baune先生にお引き受けいただけています。その他、GINP理事長のKasper先生、GINP次期理事長のBlair先生、WFSBP理事長のYatham先生、AMED理事長の末松誠先生、John Kane先生、Allan Young先生にもご講演いただける見込みです。以前お知らせいたしましたようにStahl先生、Meltzer先生、McIntyre先生にもお越しいただけます。1月より一般演題登録が始まりますので、ぜひご登録をご準備いただけますようお願い申し上げます。

その前の2019年2月28日から3月2日にはインドネシアのジョグジャカルタで主にASEAN地域でのAsCNPの発展を目指した学術会議が開催されます。JSNP会員の皆様にもぜひご参加いただければ嬉しく思います。現在一般演題登録中となっております。

AsCNP/JSNP/JSCNP2019 ホームページ
<https://www2.aeplan.co.jp/ascnp/>

AsCNP-ASEAN Congress ホームページ
<http://ascnp-asean2019.com/>

2020年はJSNP設立50周年の記念すべき年会となります。以前よりお知らせしていますように、大隅典子先生に年会長をお引き受けいただいております。また、日本生物学的精神医学会（理事長：尾崎紀夫先生）、日本精神薬学会（理事長：吉尾隆先生）との合同年会として、それぞれ年会長は吉川武男先生と吉尾隆先生がご担当下さります。会期は8月21-23日（金-日）を予定しております。これに合わせて、JSNP50周年記念シンポジウム委員会が発足し、中込JSNP理事長が委員長を兼務することとなりました。委員は、鍋島俊隆先生、山脇成人先生、新田淳美先生、橋本亮太先生、吾郷由希夫先生、内田裕之先生です。

2019年と2020年のいずれの年会も何卒よろしくお願い申し上げます。

脳科学関連学会連合（脳科連）の第4期代表に山脇成人先生が選出され、活動が開始されています。脳科連は特定学会の枠を越えて今後の日本の脳科学推進に役立つ活動を推進していくのがミッションですが、微力ながら当学会もお応えできるように取り組んで参りたいと思います。

執行委員会（委員長：池田）では、月に一度スカイプか対面式での会議を続けて参りました。学会が取り組むべき多くのニーズにタイムリーに対応できるよう、努めて参りました。

総務委員会（山田清文委員長）では、菊地哲朗理事とも連携して、賛助会員制度を法人会員制度にリニューアルさせ、法人会員数が増加し、JSNPにおける産学連携がますます強化されました。会員全体数も初めて1300を超えました。また、11月15日の評議員会での役員選挙も無事終わり、新たに、岩田仲生先生、尾崎紀夫先生、久住一郎先生、服部信孝先生、喜田聡先生、北市清幸先生、橋本均先生、宮川剛先生が理事に、吉岡充弘先生が監事に選出されました。

当学会の新機関誌のNeuropsychopharmacology Reportsへのご投稿数も順調に伸び、11月8日時点で50報の投稿、35報のアクセプトとなっております。編集事業は長年の間、年間300-400万円の赤字事業でしたが、リニューアル初年度から黒字事業になる可能性も出て参りました。会員の皆様には、ジャーナルのリニューアルや編集方針に関しまして、何度もアンケートにご協力いただきまして、誠に有難うございました。ご投稿、ご査読いただいた先生方も多いことと思います。今後ともご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース（石郷岡純委員長）でも、EGUIDEなどの研修や一般向けのガイドの出版など、精力的にお進めいただきました。精神神経学会でのサブスペシャリティの関係から、本事業はJSCNPと合同で進めることとなり、既に合同での活動を開始しています。また、ガイドラインの改訂を目指してタスクフォースメンバーを募集いたしました。既に70名を超える先生方に委員にご就任いただいております、今後さらに増える見込みとのことです。

不安症治療ガイドラインタスクフォース（井上猛委員長）は、企画委員会（井上猛委員長）での調査で最重要事業となったことを受けて発足しました。不安症学会と連携してガイドライン作成を進めており、2019年3月に不安症・強迫症診療ガイドラインが完成する見込みです。

PPPsタスクフォース（山脇成人委員長）の活動も活発に行われており、イメージングバイオマーカー開発のワーキンググループ（WG）1がスピンアウトし、WG2, 3, 4もスピンアウトの方向で、厚生労働省やPMDA、製薬協などとの会議を継続しております。特に、治験・臨床研究データベース構築のWG3は、12月に組合を組織して、JSNPからスピンアウトする予定です。

TMSC委員会（中込和幸委員長）では、症状評価新システムの構築が検討され、PPPsのWG2事業と連携して産学官の事業化を目指しています。また、臨床研究法の施行を踏まえ、学会としての対応を検討しております。

学術賞選考委員会（曾良一郎委員長）でも、多くの選考を公正にお進めいただきました。海外学会での一般演題優秀賞の選考は、演題登録期間の延長、臨床と非臨床の区分けの問題、抄録と発表との違いの問題などもあり、委員の先生方には大きなご負担をおかけしたと思います。受賞者の先生方にはぜひ励みにしていただき、今後も神経精神薬理学を発展させていただきたいと思います。また、鍋島俊隆先生のご篤志により、鍋島賞が始まったことも大変嬉しく思っております。

財務委員会、広報委員会、倫理委員会、Nomenclatureワーキンググループなど他の委員会やタスクフォースでも着々と活動が続けられてきました。

改めて関連URLを以下に記載いたします。

JSNP 入会手続きのウェブページのURLは以下です。

<https://feb.db-boss.com/asas/user/regist.asp?sid=641>

JSNPのFacebookページのURLは以下です。

<https://www.facebook.com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%A5%9E%E7%B5%8C%E7%B2%BE%E7%A5%9E%E8%96%AC%E7%90%86%E5%AD%A6%E4%BC%9A-1622874974671852/?fref=ts>

2年間のJSNP活動を支えて下さった南雅文第47回年会長、中込和幸第48回年会長、委員会委員や事務局の皆様にご感謝するとともに、学会活動にご理解、ご協力、ご活動いただいた会員の皆様に心より御礼申し上げます。お陰様で、JSNP理事長としてすべきと思っていたことの内、8割程度を実施できたように思っております。少々強引なところもあったと思いますが、ご容赦頂ければ幸いです。今後の先生方のご活動により、神経精神薬理学が益々発展し、中枢薬の作用機序解明、創薬、適正使用が進むことをお祈り申し上げます。2年間、誠に有難うございました。

2018年11月
一般社団法人 日本神経精神薬理学会
前理事長 池田 和隆